



むつ720～5

平成19年4月27日

国土交通省道路局長 様

むつ市長 杉山



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

このことについて、平成19年4月2日付国道企第114号で依頼のありました標記について、別紙のとおり意見書を提出いたしますので、よろしくお願いたします。

「中期的な道路政策や道路の整備・管理の計画策定について」

今後の道路政策や道路の整備・管理について以下の通り意見を述べます。

1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

①地域を生かす高速交通体系の整備

むつ市は、下北半島の中核都市ですが、半島部という地理的特殊性や過酷な自然条件というハンディキャップを背負っていることから、他の都市圏とを結ぶ高速交通体系の整備の遅れが、産業、生活、観光などあらゆる面において障害となっており、その整備は、地域の発展を図る上で最も緊急な課題となっています。

現在、下北半島縦貫道路の整備が進められていますが、半島住民は、その整備促進を一日千秋の思いで見守っています。

このような地域の特殊性を持ち、高速交通体系の整備を望む地方都市は、全国に数多くあると思われることから、中期計画策定にあたっては、これらを十分考慮し、優先度の高い政策としてとらえるべきです。

②既存の国県道の整備

下北半島は、一般国道 279 号、338 号及び 21 路線の県道があり、半島住民は、通勤、通学、生産物の輸送に至るまでほぼ 100 % これらの路線に依存して生活しています。

しかし、ここ数年、半島内の国、県道では、落石や岩盤崩落等が相次ぎ、集落の孤立や迂回のため数時間を要するなど不便を強いられています。

また、急カーブや狭隘箇所も多く、車の交差もままならない状況にあるほか、冬期間閉鎖される路線もあるなど、とても道路本来の機能を果たしているとは言えない状況にあります。

新しい道路の整備を進めることも必要ですが、下北半島は、海岸線や急峻な山間地帯に阻まれ、新規道路整備には多額の費用を要することから、まず、既存道を徹底的に整備し、道路本来の機能を持たせ、安全で安心して利用できる道路とすることが喫緊の課題と考えます。

このような状況下に置かれている市町村は全国に多数あると思われるので、こうした地域の実情を十分踏まえ、優先度の高い政策として位置づけしていただきたい。

2. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

①事業の事前評価を徹底し、真に必要な事業を採択することとし、採択された事業については、スピードアップが図られるよう管理する。

②事業実施にあたっては、工法について比較検討し、コストの縮減を図る。

3. その他、道路政策や道路の整備・管理全般について

地方では公共交通機関が少ないことから、有効な移動手段は自動車以外になく、その依存度は極めて高くなっています。

しかし、地方の道路整備は、まだまだ遅れているのが実情であり、今後の道路政策や道路整備は、地方に目を向けた計画を策定していただきたい。